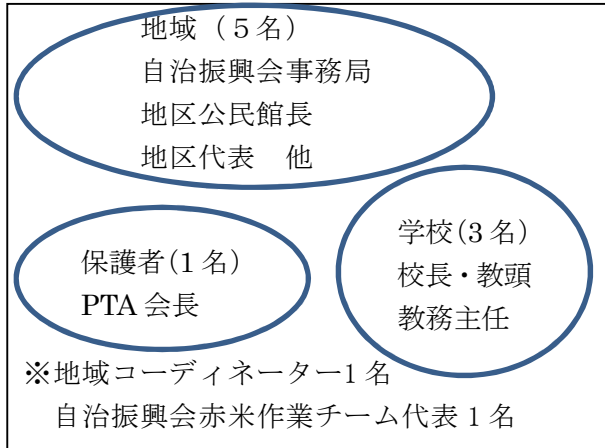


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ①年間3回開催
- ②6月、11月、2月に開催
- ③協議内容
 - ・学校運営方針（スクールプラン）や教育活動の説明と意見交換
 - ・地域や家庭と学校の連携の進め方についての意見交換
 - ・学校評価の内容や結果についての審議

(3) 協議会における成果と課題

大津の保育園児が巻き添えになった事件を受け、学校前の変形交差点が危険であると判断し、頑強なガードレールの設置を自治振興会を通して市長と議員に要望することができた。

また、地域の見守り隊の現状把握をすることができ、子どもを不審者から守るための家庭と地域と学校の協力体制の在り方について意見交換をすることができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の中でたくましく生きる児童の育成を目指し、地域の方々や施設と連携・協力しながら心に残る体験活動を推進する。

(2) 活動の実際

①「赤米作りと薬師寺への奉納」（5学年）

南中山地区自治振興会の赤米作り実行委員会の協力・指導を得ながら田植えや稲刈り等を行い、11月には奈良県薬師寺に赤米を奉納した。赤米を使った炊飯体験をしたり、赤米の加工食品を食べたりして、赤米のおいしさや収穫の喜びを味わうことができた。



②「野菜作りと招待給食」（1～6学年）

地元の指導者（ロハス越前）の協力を得ながら、大豆栽培や加工体験（味噌、きなこ、打ち豆、湯葉）を行った。

また、お世話になった方々を給食に招待し、収穫した大豆や赤米や野菜などを使った献立でもてなし、感謝の意を伝えた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

赤米作りについて計画や事前指導に関わり、田植えや稲刈りの道具の事前点検や準備を行ったり、児童の活動について学校とボランティアとの連絡調整をしたりした。招待給食では赤米作り実行委員会への参加の呼びかけと取りまとめを行った。赤米奉納当日も児童に同行し、神輿の準備等でも中心的役割を担った。

(4) 特に工夫した事項

- ・赤米作りでは、事前指導を受けた後に田植えや稲刈りを体験し、稲の生育や米づくりの大変さについての理解を深めた。また、自治振興会が製造した赤米のポン菓子を児童に配付して好評を得た。
- ・5年の家庭科「ご飯とみそしる」の單元では、実際に収穫した赤米を白米に混ぜて炊いたり、昨年度仕込んで出来上がった味噌を使って味噌汁を作ったりした。
- ・学校と地域との連携を強化するため、学校からの情報発信に努め、家庭や地域との情報の共有化を図った。特に「赤米作り」や「赤米奉納」では、自治振興会や公民館との連絡を密にすることで、滞りなく活動することができた。

(5) 成果と課題

多くのボランティアの方々の協力を得て、貴重な体験が継続されている。児童にとってはかけがえのない経験であり、地域をよく理解し、郷土愛を深めることにつながっている。また、田植えを行う際には、稲粃の種播きなどについて事前指導を受け、赤米の生長や生命への理解を深めることができた。赤米奉納では、自治振興会のメンバーの他にも公民館の主事や一般参加者もいて、地域に根ざした行事になってきていることが感じられた。5年生にとって恒例になった赤米作りは児童にとって楽しみにしている行事の一つになっている。特に赤米奉納では地域を代表して赤米を届けるという使命感を持って臨むことができた。薬師寺のある奈良県に出かけて、福井と奈良との昔からの縁を意識したり、郷土に対する誇りを強く感じたりすることができ、翌年に実施する修学旅行への期待も高まった。

課題としては、現在の赤米作りが少数のボランティアの方々に主に支えられている点である。自治振興会が関わっているものの、現在のような協力体制がいつまで続けられるかは不透明である。

今後、児童の活動も大事にしながら、その活動を支える周囲の負担軽減も考慮しつつ、よりよい在り方を選択していく必要がある。